

## 近代豊中の産業と市勢のあゆみ

本講座…近代豊中の産業について、農業・工業に焦点をあてて紹介

（自身：近現代史が専門 ※特に明治時代）

1章 統計・写真でみる近代豊中の産業構造

2章 近代豊中での農業の一側面～南豊島村（旧勝部村）を事例に～

3章 近代豊中のインフラ整備と工業

※令和8年（2026年）＝市制施行90周年（昭和11年（1936年）市制）

### 1章 統計・写真でみる近代豊中の産業構造

明治22年（1889年）…市制・町村制、大規模な町村合併を実施（江戸時代の村を複数合併して大きな村をつくる）



出典：『新修豊中市史 集落・都市』

桜井谷村：324戸・1,653人（明治22年当時）

野畠、内田、少路、柴原、北刀根山、南刀根山

麻田村：199戸・1,067人

麻田、箕輪、走井

豊中村：428戸・2,857人

新免、南轟木、山ノ上、岡町、桜塚

熊野田村：292戸・1,216人

熊野田

中豊島村：254戸・1,294人

曾根、岡山、福井、長興寺、服部

南豊島村：502戸・2,472人

勝部、原田、利倉、穂積、上津島、南今在家

小曾根村：372戸・1,783人

小曾根、石蓮寺、寺内、北条、浜、長島

庄内村：495戸・2,110人

島田、野田、三屋、牛立、菰江、島江、庄本、洲到止

→中世・江戸時代の地域のまとまりを参考にしつつ町村合併

（桜井谷6ヶ村、小曾根郷、原田庄、椋橋庄）

・豊中の近代…明治43年（1910年）3月10日、箕面有馬電気軌道（阪急宝塚線）開通

→大阪梅田一宝塚間24.9km、石橋一箕面間4kmが開業

始発5時30分、終発23時30分、梅田一宝塚間は所要時間50分

創業者 小林一三（1873～1957）

「幸ひに沿線で住宅地として最も適正な土地—沿線には住宅地として理想的なところが沢山あります。仮に1坪1円で買ふ、2万5千円もうかる、5万坪が果たして売れるかどうか、これは勿論判らないけれど、電車が開通せば1坪5円くらいの値打ちはあると思ふ、そういう副業を当初から考えて、電車がもうからなくとも、この点で株主を安心せしむることも一案だと思います。」（小林一三『逸翁自叙伝』、下線報告者）  
→小林のプラン＝鉄道敷設+沿線の住宅地開発・分譲（用地買収のコストを回収）

### ここでちょっとクイズ

豊中市域にある阪急宝塚線の駅のうち、最初にできた駅は次のうちどれでしょう？

（2つ同時にできます）

①豊中駅・蛍池駅 ②岡町駅・服部天神駅 ③曾根駅・庄内駅

※ヒント！ 次のスライドはできたときの駅の写真です

⇒豊中…阪急の開設を機に、沿線での住宅地開発が進む（スライド）

### 表1 豊中市域の人口

表②指標表示（明治23年（1890年）を100として表示）

→明治44年（1911年）～市域の人口が増加し始める

昭和10年（1935年）ごろ 豊中村・麻田村の急激な増加

→人口増加の著しい地域…他村からの流入人口が多い

熊野田村・桜井谷村・小曾根村・南豊島村・庄内村は人口増加がゆるやか

### ・土地利用（明治33年（1900年）時点）

→新田村・桜井谷村・熊野田村…丘陵地のため山林地が多い

（新田村32.2%、桜井谷村20.5%、熊野田村14.2%、その他の村は3%以下）

→麻田村・豊中村・中豊島村・南豊島村・庄内村

…山林が少なく田畠などの耕地面積が広い

（田：庄内村86.6%、麻田村83.5%、南豊島村80.7%）

（畠：豊中村34.9%、桜井谷村30.5%、中豊島村18.7%）

⇒豊中市域…明治30年代まではおおむね農業地帯が広がる（宅地：豊中村6.5%）

### ・職業別人口

#### 表2 大正9年（1920年）・昭和5年（1930年）の職業別人口からわかるこ

→・麻田村・豊中村…農業人口が少ない、その他の村は農業人口が50%を超える

・昭和5年…全体的に農業人口が減少

（53%→30%、桜井谷村・熊野田村・新田村は農業人口が依然高い）

商工業者・公務員・自由業人口が増加 **※庄内村は工業が特に増加**

⇒江戸時代以来の農村地域が住宅地域・工業地域へ変化

※大阪市への通勤者が多い

（明治44年豊中村事務報告書「電車開通以来住宅ノ經營スルモノ又多ク為メニ住民ノ出入モ隨テ頻繁トナリ」）

・豊中の農業

- 表3
- ・米…豊能郡全域で生産、豊中市域では桜井谷村で良質な酒造米を生産
  - ・果樹（蜜柑）・樹木…桜井谷村・熊野田村など丘陵地で栽培・生産（温州蜜柑）
  - ・酒造…池田町が全国的に有名な酒處、小規模ながら豊中村でも醸造
  - ・養鶏…豊能郡全域で行われる
  - ・養蜂…南豊島村で生産

⇒豊能郡…明治時代には主穀生産を中心とする農業→工業化が市域南部を中心に進む

※大正・昭和～ 大阪市（此花区・大正区・西淀川区）・岸和田市・泉南郡の工業化・臨界工業地帯化が爆発的に進む

→尼崎市（大阪市内に本社を置く工場の分工場が設置）・豊中市南部にも波及

## 2. 近代豊中での農業の一側面～南豊島村（旧勝部村）を事例に～

・表3 南豊島村…「養蜂」とあり

→旧勝部村で庄屋を務めた家から養蜂関係の資料が残存（現在、分析中）

近代豊中で営まれた養蜂について、豊中における農業の一端として紹介

### （1）養蜂の歴史

文献上で「養蜂」の単語が初めて確認できるのは『日本書紀』とされる

「百濟の太子余豊、蜜蜂の房四枚をもって三輪山に放ち飼う。しかれどもついに蕃息らず」

（643年）→百濟の人が奈良の三輪山で養蜂を試みたが失敗に終わった

平安時代…貴族や庶民の間でもミツバチが飼われていた記述あり（『今鏡』、『今昔物語』）

江戸時代…本草学（植物・動物・鉱物など産地・効能を研究する学問、=博物学）影響もあり、蜂の生態観察・養蜂技術が飛躍的に進む、養蜂の専門書も刊行・普及  
『大和本草』（貝原益軒著、1708年初版）

→「蜂蜜」…石蜜・木蜜・土蜜・家蜜の4種

伊勢・紀州・熊野・尾張・土佐の産地が有名、特に土佐産は良品

明治時代…明治8年（1875年）～ドイツの養蜂技術が日本に紹介

明治10年（1877年）セイヨウミツバチがアメリカ経由で日本に導入

### （2）ニホンミツバチとセイヨウミツバチ

- ・ニホンミツバチ…日本の在来種、分類学上はトヨウミツバチ (*Apis cerana*) の一亜種  
セイヨウミツバチとの違い

通称「ワバチ」「ヤマミツバチ」、小さい、黒味が強い、おとなしい、山地に生息

移住性が高い、病気に強い、対スズメバチは群がって発熱

蜜が良質、採蜜量は少、蜜の色は濃茶、蜜価格高

→セイヨウミツバチを用いた養蜂の近代化により農家の庭先で昔ながらの方法で育てられる ※近年は低価格の外国産ハチミツが輸入され、セイヨウミツバチも減少

### （3）南豊島村（旧勝部村）での養蜂

おそらく明治38年（1905年）ごろには養蜂が営まれる

・巣箱…13箱、「日本種」とあるのでニホンミツバチ

・産地…大阪府豊能郡豊中村桜塚、南豊島村服部、豊能郡渋谷から王蜂（女王蜂）を仕入れ

・養蜂の様子

「養蜂日記」（明治39～42年まで）

→1年間の養蜂の飼育内容、蜂の観察、季節の植生を記録した貴重な資料

**内容** 1月～5月に養蜂

…花粉の運搬過程を観察、巣箱ごとの蜂群の強弱をランク付け

勢いが弱い巣箱→強い巣箱へ巣枠を移動、王蜂を分蜂

4月より採蜜・収蜜（5月までに合計18回、44.4貫=約166kg、1巣箱で平均5kgほどの採蜜が平均）

・流通…東京・大阪・京都などの商店に蜂蜜・王蜂を販売

リューマチの治療薬としても需要あり⇒輸送途中で王蜂が逃げるなど難点もあり  
⇒綿密に記録を取りつつ、自家用+各地に出荷を図る ※流通過程は現在検討中（相手は？）

## 3. 近代豊中のインフラ整備と工業

昭和8年（1933年）府産業道路大阪・池田線が開通（現：国道176号線）

→豊中の農村風景も変わっていきます

・昭和時代の豊中…周辺の町村を合併

昭和2年（1927年） 豊中町…豊中町、麻田村、桜井谷村、熊野田村が合併

昭和11年（1936年）市制施行…豊中市誕生

昭和22年（1946年）中豊島村、南豊島村、小曾根村が豊中市に編入

昭和26年（1951年）上新田地区が豊中市に編入（下新田は吹田市に）

昭和30年（1955年）庄内町が豊中市に編入

**背景** 大阪市の人口膨張（「大大阪」）

→大正9年（1920年）176万人→昭和10年（1935年）299万人

大阪市内の人口が飽和状態、周辺の近郊農村に移住

※人口増加…住民の生活環境を整えるため、各種のインフラ整備が必要

→・電気…阪急電鉄など電鉄会社が沿線住宅地に電気供給事業を開始

- ・水道…大正14年（1925年）豊中村が深井戸の開鑿を決定  
昭和3年（1928年）豊中村が上水道を敷設  
※下水道…昭和27年（1952年）から建設開始
- 横浜市…明治22年（1889年）に日本で初めて上水道が開通
- 大阪市…上水道は明治28年（1895年）、下水道は明治32年（1899年）に完備
- 尼崎市…明治41年（1908年）ごろから計画、大正7年（1918年）通水  
⇒豊中の水道…工業化の進展で周辺自治体の水道敷設が早かつたため少々遅れる

・豊中の工業

表4 上段…各郡市の分類項目ごとの工業生産額の割合  
下段…大阪府全体に対する比率

豊能郡…染織・化学・飲食が中心⇒大阪府全体では1%も満たない生産額  
大正・昭和期～ 市域南部の神崎川沿岸部で工場設置・移転が相次ぐ

・戦時期…市域南部の工場が軍需工場に転換

昭和20年6月7日 午前11時10分～12時40分

B29約250機以上、B24少数機→18～80機単位に4編隊に分かれて大阪湾を通って襲来  
豊南地区…爆弾・焼夷弾攻撃、庄内地区・豊南地区…焼夷弾攻撃、油脂焼夷弾

被害状況…全焼1101、半焼30、全壊553、半壊797

死者541、重傷283、軽傷561、行方不明14、罹災者10176

工場 三国航空機材 全焼

## おわりに

豊中の近代…明治43年（1910年）3月10日、箕面有馬電気軌道（阪急電鉄宝塚線）の開通を転機として住宅地化が進む

農村風景が広がりつつも、市域南部を中心に工業化が進む

⇒阪急沿線・国道176号線沿い、市域の北部と南部（庄内地域）、など市域の中でも地域の特徴に違いがあります